

単発性骨嚢腫の治療法と長期的な治療成績に関する多施設共同研究

1. 研究の対象

2003 年 4 月 1 日～2015 年 7 月 31 日に当院で単発性骨嚢腫の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

単純性骨嚢腫は若年者の上腕骨（じょうわんこつ：うでの骨）や大腿骨（だいたいこつ：ふとももの骨）、踵骨（しょうこつ：かかとの骨）などにできる良性の骨腫瘍に似たできもの（腫瘍類似疾患）です。治療は、病巣が小さければ経過観察、骨折をきたす可能性があれば手術やステロイド注入などが行われますが、手術の方法にも様々な方法があります。しかし、再発率が高く（およそ40～80%ほど）、再発を繰り返すと手足の機能が損なわれることがあるとされており、日本全体でのまとまった報告はなされていません。本研究の目的は、日本の骨軟部腫瘍専門病院（骨軟部肉腫治療研究会に所属する施設）で治療された単発性骨嚢腫の患者さんの治療経過を解析し、再発の頻度やそれらに対する治療、そして最終的な疾患の治癒率や手足の機能をまとめることで、今後の診療に役立てることを目的としています。大阪国際がんセンター整形外科において2003年4月1日～2015年7月31日まで手術を受けられた患者様で5年以上経過観察ができた患者様が対象です。

長期成績（再発率や隣接関節の成長障害など）、再発に関わる因子の解析を多施設後向き観察研究として行うことです。主たる研究機関は金沢大学整形外科であり、他施設は日本国内（骨軟部肉腫治療研究会所属施設）の骨軟部腫瘍の治療を専門に行っている病院（整形外科）です。今後の治療方針に役立つことが期待されます。

この研究ではこれまでに行われた検査や治療内容のデータを使いますので、患者さんの負担はありませんし、今後の治療方針にも影響しません。また費用の負担もありません。

なお、この研究は、大阪国際がんセンター倫理審査委員会の審査を受け、総長の承認を得て行っているものです。

この研究では、診療のときに検査した各種画像検査、診療記録のデータを使います。そのときに患者さんのお名前などの個人情報を削除します。この後、必要なデータをまとめ、再発や転移の有無、術後の手足の機能についての研究を行います。集めたデータは学会や論文などに発表される事がありますが、個人情報が公表されることはありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：初診日、初診時画像所見（レントゲン、MRI）、手術日、術式、合併症、合併症に対する治療、再発の有無、再発に対する治療、患肢機能 等

4. 外部への試料・情報の提供

研究事務局へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

金沢大学附属病院	整形外科	教授	土屋 弘行
〃	整形外科	特任教授	山本 憲男
〃	整形外科	特任教授	林 克洋
〃	整形外科	助教	武内 章彦
〃	整形外科	助教	三輪 真嗣
〃	整形外科	特任助教	五十嵐健太郎

骨軟部肉腫治療研究会（特定非営利活動法人）

事務局 〒540-0006大阪市中央区法円坂2-1-14

国立病院機構大阪医療センター 整形外科

電話：06-6942-1331（内線）2502

ファックス：06-6946-3607

E-mail：info@jmog.jp

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人
の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 整形外科 伊村 慶紀

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：

大阪国際がんセンター整形外科 竹中 聡

研究代表者：

金沢大学医薬保健研究域医学系整形外科 土屋 弘行

-----以上

